

75. 水辺の社会実験に関する研究
 ～広島・大阪のオープンカフェを対象として～

06168062 土井裕佳
 指導教員 市川尚紀 講師

水辺 オープンカフェ インタビュー調査 社会実験

1. 序論

1.1 研究の目的

近年、都市の水辺の空間の価値を見直そうとする動きから多くの河川が存在することで「水の都」と呼ばれている都市を中心に、水辺にオープンカフェ（以下 O.C と呼ぶ）を開業し、水辺の公共空間の利活用を図る社会実験^{註1}が行われている。河川空間で実験されている事例は広島県広島市と大阪府大阪市や福岡県福岡市、愛知県名古屋、千葉県香取市の5つの都市でみられ、都市の賑わいや水辺の魅力を発信している。本研究では、この社会実験を「水辺の社会実験」と呼ぶ。

この5都市で行われている水辺の社会実験の詳細な情報を収集・整理し、その内独自性が伺える新たな水辺の社会実験を選定し、立地特性や事業スキーム、空間構成、利用者評価を比較・考察することで、水辺に O.C を設置する際の基礎資料を作成することを目的とする。

1.2 独自性のある水辺の社会実験事例の選定

福岡と名古屋は、広島の水辺の社会実験を参考にした O.C を試行していることが分かった。香取では、レジャーや舟運等観光の中心となる施設の整備が主に行われ、O.C のような建築的な取り組みは見られない。一方、大阪では北浜テラスという川床の社会実験を行っている。したがって、独自性が伺える新たな水辺の社会実験事例として、大阪と広島の水辺の社会実験を現地調査及びインタビュー調査の対象とした。

1.3 調査概要

広島と大阪の調査方法を表 2 に示す。

表 2 調査方法

	広島	大阪
文献 HP など	・ 広島市役所HP ・ arch-hiroshima HP	・ 水都大阪2009 HP ・ 北浜テラス(大阪川床)2008実施報告書、2008年12月9日
現地 調査	・ 元安川 2009年6月12日 ・ 京橋川 2009年10月22日	・ 土佐堀川 2009年5月18日、9月21～22日 ・ 水都大阪2009 2009年9月21～22日
イン タビ ュー ・年 ・月 ・日	2009年6月12日	2009年5月18日、9月21日
	・ 広島市都市活性化局 ・ 観光交流部交流課水の都担当主査 ・ 広島市都市活性化局 ・ 観光交流部交流課専門員	・ NPO 水都OSAKA水辺のまち再生プロジェクト委員 ・ 水都大阪2009実行委員会事務局課長 ・ 有限会社ハートビートプラン代表 ・ 大阪まちプロデュース代表 ・ NPO もうひとつの旅クラブ事務局長

各事例の概要や立地特性、事業スキーム、空間構成、利用者評価は文献や HP によって基礎資料を収集し、現地調査やインタビュー調査で詳細な情報を加える。

2. 広島と大阪の社会実験の概要

2.1 広島の水辺の社会実験の概要

広島の水辺は以前より整備され、公園や遊歩道として存在してきたが、人通りが少なく活気がないため、水辺に O.C を設置する社会実験が試行された。店舗やテラスを公共空間に設置した O.C は「独立店舗型 O.C」(2005.10～)、また既存建築物を屋内店舗として利用し、テラス部分を公共空間に設けた O.C を「地先利用型 O.C」(2000年～)と呼ばれている。現在、独立店舗型 O.C と地先利用型 O.C はそれぞれ 4 店舗ある。

2.2 大阪の水辺の社会実験の概要

大阪の水辺の社会実験では、高度成長経済期に川を背にして建ち並んだビルの裏側の活用されていないテナントの窓部分と川の堤防の間に屋外テラスを設置して、飲食可能な空間を作り社会実験を試みている。このような形で実施している水辺の社会実験は他に例がない。なお、この屋外テラスの事を「川床」、またこの川床を設置した飲食店の事を「北浜テラス」と呼んでいる。現在、北浜テラスは 3 店舗ある (2009.5～)。

3. 考察

3.1 オープンカフェの立地特性

広島の水辺の O.C は大きく分けると 2 地区あり、1 つは周辺がビジネス街である京橋川の河岸緑地にある。他方は、平和記念公園敷地内である元安川の河岸緑地にある。元安川の O.C (店舗部分約 76 m²+デッキ部分約 77 m²) は京橋川の O.C (店舗部分 30~31.8 m²+テラス部分 21 m²) より後に出来たもので、規模が京橋と比べて 102~100.2 m² も大きく、また観光地に立地していることから外国人来客者が多い。一方、大阪の北浜テラスはビジネス街に存在するため、平日は会社員で賑わっている。しかし、このビジネス街は観光客も少なく、この地区の住民登録も 5~6 件であるため、休日となると人通りが少なくなるので、閉店している店もある。

3.2 水辺の社会実験の事業スキーム

広島の水辺の社会実験の事業スキーム(図 3)は水の都ひろしま推進協議会がメインとなり、河川・公園管理者に占有・使用許可を取り、出店者と契約し開業するため、様々な事業者が参入する機会が与えられる。また、地域のまちづくり活動団体に地域の環境改善や防犯につながる使用の連絡や調整を行っている。

一方、大阪の水辺の社会実験の事業スキーム(図 4)はビルオーナーやテナントオーナーからなる北浜川床協

議会が水都大阪 2009 実行委員会を通じて、公共機関から河川管理者に占用許可を取っていたが、水都大阪 2009 の催し中に北浜川床協議会が直接占用許可を受けることが可能になった。それは、北浜テラスは出店者が主体で活動しており、また出店者はビルオーナーかテナントオーナーに限られていることが要因である。したがって、北浜テラスでは、河川区域の占用許可を得られれば事業は可能であるため、比較的水辺の社会実験を実施しやすいといえる。

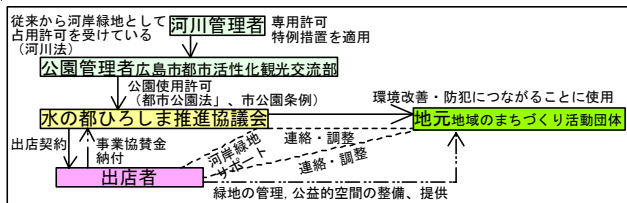


図 3 広島の水辺の社会実験の事業スキーム

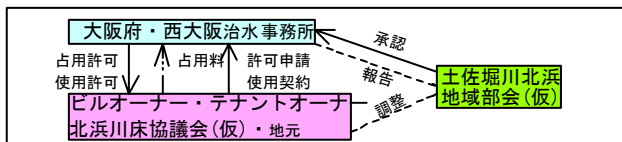


図 4 大阪の水辺の社会実験の事業スキーム

3.3 川と店舗の空間構成

広島の水辺の O.C と大阪の北浜テラスの共通点は、店舗や屋外空間が狭いうえに、雨天時に備え、テラス・川床の利用客分の席を屋内空間に確保しなければならない。また、テラス・川床使用料を客が支払うわけではないので、雨天時の営業はテラス・川床利用者が多数なため採算が合わないリスクがある。

一方、北浜テラスの川床はビル正面の道路からは見えないため、川床のことを知っている利用者以外は認識することが難しい。ビル後方から川床を目視することは可能だが、規模が小さくて存在感がない。さらに、周辺は中之島公園を除き、道路や建築物しかないため、景観も良くない。しかし、堤防の上まで川床を張り出しているため、河川空間独特の風を感じることが出来るため、利用者にとっては親水性が非常に高い。また、大阪の水辺の O.C は干満差が約 4m と大きいため、高い堤防が設けられ O.C と川との距離が遠い。地先利用型は既存建築物を利用するため出店しやすいが、テラスと川の間には歩道があり川を目視しにくく、親水性が低い。しかし、川とテラスの間に河岸緑地がある場所もあり、公園にいるような雰囲気、景観は良い。また、独立店舗型 O.C は河岸緑地に店舗を設置しているため店舗面積が限られ、事業者が大きな利益を得ることは困難である。

一方、北浜テラスの川床はビル正面の道路からは見えないため、川床のことを知っている利用者以外は認識することが難しい。ビル後方から川床を目視することは可能だが、規模が小さくて存在感がない。さらに、周辺は中之島公園を除き、道路や建築物しかないため、景観も良くない。しかし、堤防の上まで川床を張り出しているため、河川空間独特の風を感じることが出来るため、利用者にとっては親水性が非常に高い。また、大阪の水辺の O.C は干満差が約 1m と小さいため、舟から川床を利用する案も出されている。

3.4 利用者評価

文献 5、6 より広島と大阪の水辺の O.C に対する利用

者の評価を比較すると両者の評価に大きな違いはない。ただし、この評価は利用者の評価であるため、北浜テラスの近くの通行人を対象に川床の印象等について独自のアンケート調査を行ったが、前述の利用者評価とほぼ同じ結果となった。

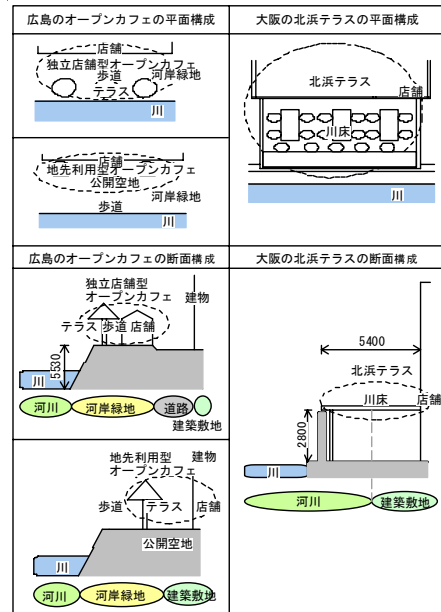


図 5 水辺の O.C と北浜テラスの平面と断面

4. まとめ

本研究では、広島と大阪の水辺の社会実験を対象として、その立地特性や事業スキーム、空間構成、利用者評価を比較・考察した。その結果、次の知見を得た。

- (1) 独立店舗型は様々な事業者が参入できる利点があるが、水辺空間が狭いと店舗の規模が制約され、大きな利益を得ることが難しい。
- (2) 元安川のオープンカフェのように、通行人や外国人観光客の多い立地であれば、小規模でも採算がとれ、河川空間の魅力を最大限に活用することができる。
- (3) 地先利用型、北浜テラスのように所有敷地に隣接した河川空間を利用すると、事業スキームが簡略化され、占用許可を受けやすく出店しやすい。
- (4) 親水性を高めるには、ただ川に隣接した場所に飲食可能な屋外空間を作れば良いのではなく、川の風を感じたり、容易に目視可能な川のレベルに合わせたりすることが必要である。

補注：注 1) 社会実験とは、新たな施策の展開や円滑な事業執行のため、社会的に大きな影響を与える可能性のある施策の導入に先立ち、市民等の参加のもと、場所や期間を限定して施策を試行・評価するもので、地域が抱える課題の解決に向け、関係者や地域住民が施策を導入する可否かの判断を行うこと。

参考文献：1) 杉志頼率、新上敏彦：社会実験による水辺の再生～広島市の京橋川オープンカフェ～、都市計画 No.278, pp.37-40, 2009.4 2) 勢田昌功：地域づくりと河川の関わりの変遷と今後の課題、都市計画 No.278, pp.9-12, 2009.4 3) 藤本和男、嘉名光市、赤崎弘平：公共空間を活用したオープンカフェの利用実態と住民意識に関する研究～広島市京橋川河岸のケーススタディ～、日本都市計画学会都市計画論文集 No.43-3, pp.619-624, 2008.10 4) 日本建築学会編：水辺のまちづくり～住民参加の親水デザイン～、技報堂出版, 2008.9 5) 北浜テラス実行委員会、水都大阪 2009 実行委員会：北浜テラス(大阪川床)2008 実施報告書, 2008.12 6) 水の都ひろしま推進協議会：河川空間利活用のリーディングプロジェクト水辺のオープンカフェ, 2009.3